

銀漢亭日録



伊藤伊那男

11月12日(木)▼飯田冬真さん句集『時効』出版を祝う会。超結社で二十五、六人集まる。清人さん肝入り。遠藤由樹子さんも来たので、冬真さん来る前に角川賞受賞の祝いの乾杯。

13日(金)▼発行所に12月号の校正原稿渡す。倉田さん幹事の俳句と写真展最終日。十人集まり打ち上げ。興梠さんと初めて会う。

14日(土)▼正午、日暮里・本行寺、「一茶・山頭火俳句大会」。講師は宮坂静生先生。当日選者、伊那男、井上弘美、檜山哲彦、能村研三、鈴木節子、斉藤慎爾、水内慶太。「銀漢」勢大活躍。あと、選者、幹事団で打ち上げ。そのあと、「銀漢」仲間のいる店へ、慶太、加茂住職、忍さんで合流す。

15日(日)▼十時、運営委員会。午後、「銀漢本部句会」五十一人。(前日、一茶・山頭火俳句大会があったので日曜日に変更)あと、「笑」にて親睦会、十人ほど。

17日(火)▼朝から選句。同人、会員分も終わらせる。一時、中川さん久々、来てくれて散髪。店、西村和子さんを囲む女子会、五人。

18日(水)▼広渡さん銀行時代の仲間と六人。高校同期「三水会」五人など。ボージョレスノーボー到来。

19日(木)▼原稿書き続ける。何とか今週中に仕上げないと年内に新年号の発送不可と。鬼編集長！環さん女子会六人。あと、「銀漢句会」あとの十七人。ボージョレスノーボー解禁日。

20日(金)▼原稿、書き続ける。発行所「葛句会」に熊取美智子さん、和歌山から駆けつけて下さる。あと七名、店で親睦会。

21日(土)▼午後、日本橋「纏句会」あと、鯛の子と蕪の炊き合わせ、は

族、上松家と二家族十一人で焼き肉店。戻って二次会少々。

30日(月)▼「演劇人句会」十人。片山一行さん上京。「大倉句会」の清人、志村、一斗さんなどが歓迎。

12月1日(火)▼店、閑散。帰路の電車で隣の男がいきなり嘔吐。何とも悪い日である。

2日(水)▼「きさらぎ句会」あと十一人。「宙句会」あと十一人。対馬康子さん。池田のりを、安藤、福井の慶大トリオ。

3日(木)▼「十六夜句会」あと九人。慶大OBの俳句会「丘の会」総会のあと、十二人来店。西村和子、本井英、杉本光祥、武田禪次さんその他……。

4日(金)▼店、「大倉句会五十回記念会」。牡蠣、ムール貝、山形牛の焼豚、京の鯖ずし、その他、持ち込み多数。三十余名で賑やかに。

5日(土)▼「Oh! つも」句会三十一人。五句出し句会でスタートし、席題で三句。十九時過ぎお開き。あと有志で角の餃子屋。

6日(日)▼十三時、中野サンプラザにて「春耕同人句会」。あと、「春耕賞」選考委員会。賞は、武井まゆみ、唐沢静男の二名。二人とも「銀漢」同人でもある。あと、「炙谷」にて忘年会。連日の酒でくたくた。二次会なしで帰宅するが、婿、娘と少し飲む。

7日(月)▼ドコモショップでデータ入力。やれやれ、これで水没事故からの回復。店、稲垣さん三人。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十三人。政三さんの欧州土産のチーズ、ワインを楽しむ。「春耕」の窪田明さん、句集『桜川』上梓。持参して下さる。私は帯文と代表句十五句選。

8日(火)▼店「火の会」、うさぎ、敬雄、朝比古、卓田、小石、詩乃、肖子、佐怒賀直美、敦子さん。ORIX時代の後輩、堀尾君三人な

たはたの一塩(題)、鱈のあんかけ、握り。酒は「出羽桜」。渋谷の四十年來の酒場へ久々。親父さん元氣！もう八十歳位になるのでは。帰宅すると家族食事中、参加。

22日(日)▼原稿書き続け一月号完了。これで多分、年内発送OK。

23日(月)▼勤労感謝の日。雑用いろいろ。「草樹」新年大会の選句。京都についてエッセイ、下調べ。午後、杏さん一家来宅。ずわい蟹6匹取り寄せてあり、蟹鍋。宮澤は六本木で講演会にて不在。

24日(火)▼「萩句会」選句。店、超閑散。二十一時閉店。

25日(水)▼携帯電話風呂に水没、ああ……。終日雨。「雛句会」八人。全体閑散。

26日(木)▼家はもうクリスマスツリーが光る。ドコモショップにて新しい携帯電話入手。データが戻るかどうかは二週間程先。やれやれ……。店、大田うさぎさん幹事の「読む会」。筑紫磐井さんゲストで「能村登四郎」と。西村麒麟、近江文代さんなど。洋醉さん、洋醉塾十周年の「酔歩」発行の挨拶に。

27日(金)▼十四時、鳥居真里子さんの「門」同人会に発行所貸し出し。店、「白熱句会」。井上弘美、藤田直子、小山徳夫さんの三人と淋しい。発行所「金星句会」あと四人。これも淋しい。全体閑散。

28日(土)▼九時、小田急線・鶴川駅。「早蕨句会吟行会」に参加、二十三人。小野路宿の関谷の切り通しのある多摩横山の古道を散策。雪の富士も見えて快晴。午後、町田市民ホールにて三句出し句会。一時間ほど選評と井上井月こぼれ話など。あと「一丁」にて親睦会、あと二次会と。久重凜子さん、皆さん有り難う。帰宅すると六家族位が大宴会中、加わる。子どもを入れて二十人以上か、一小时前に私は部屋へ。

29日(日)▼京都についてのショートエッセイ書き進める。十七時、家

ど。

9日(水)▼発行所「梶の葉句会」あと十二人店で忘年会。

10日(木)▼武田禪次句集『留守詣』跋文、六枚ほど。松川洋醉さん「洋醉塾十周年の集い」何と三十七人集合。乾杯！祝句「酔眼で見れば佳き句に年尽くる」。だいぶ飲んでしまふ。ああ……。

11日(金)▼冷蔵庫の修理日。昨夜、電源を切つて来たか？店の鍵を置いて来たか？急に不安になり、取るものも取り敢えず、十時頃店に入る。ちゃんとやってあった！記憶が不確かなのはやはり昨日の酒、ああ……ヘトヘト。時間があつたので、アメ横へ。田舎の従兄弟にするめと数の子を送る。吉池にて鮑入手。何と、ボラの卵もあり、四腹買う。カラスミを作るぞ！と、そこで親戚の五日市さんとはったり会う。店、黒岩徳将君他、若手俳人六人。凌雲君大阪から。全体閑散。

12日(土)▼十時、運営委員会。句会場、今日は「麹町会館」にて移動。ハンバーグの定食。「銀漢本部句会」六十二名と満員状態。あと忘年会、三十名ほど。

13日(日)▼酒が抜けない。十一時半、東京タワー下、「とうふ屋うかい」にて編集部慰労会。十五人。楽しい会。渋谷、東急ハンズにて魚の干物干しの網買い帰宅。カラスミを干すため。桃子の大学時代の友人二人来ていて蟹鍋に参加。

14日(月)▼「俳句界」3月号の「セレクション結社」の原稿二枚。主要同人二十句。店、相沢文子さん、相澤さんが今日入籍。店で十数名がささやかにお祝い。大西、いづみさん幹事。ケーキ、花束など用意して祝う。洋醉さん神父役。(相会ふも義士討入りの日の緑)